

本資料には、個別工事費などの機微な情報が含まれているため、
一部情報については、マスキング処理をしております。

東京中部間連系設備に係る広域系統整備計画 佐久間東幹線（山線）他増強工事における 工事費の状況について

2023年 9月 27日
広域系統整備委員会
コスト等検証小委員会事務局

- 東京中部間連系設備に係る広域系統整備計画のうち、電源開発NWが事業実施主体である佐久間東幹線（山線）他増強工事については、工事費増額を受けた2023年3月までの検証により、**見直し後の概略工事費を1,430億円（2023年3月時点）**と示したところ。
- しかしながら、他工区はもとより先行工区も更なる精査が必要となることから、**2023年4月以降も継続的にコスト低減の状況について確認する必要**があるとした。
- 第32回コスト等検証小委員会（2023年5月）では、電源開発NWから報告があった4・5月の請負工事及び資材の発注分についてご報告したが、**今回は6～10月の請負工事及び資材の発注分について確認したので、その内容についてご報告する。**

■ 佐久間東幹線（山線）他増強工事の工事費増額に関する検証結果について（2023年3月27日）一部抜粋

8. 今後の継続的な確認について

今般の検証において、限られた時間の中で一般送配電事業者の協力の下、コスト低減を行ってきた。ただし、先行工区について一定程度のコスト低減を提案したに留まっており、他工区はもとより先行工区も更なる精査が必要となる。

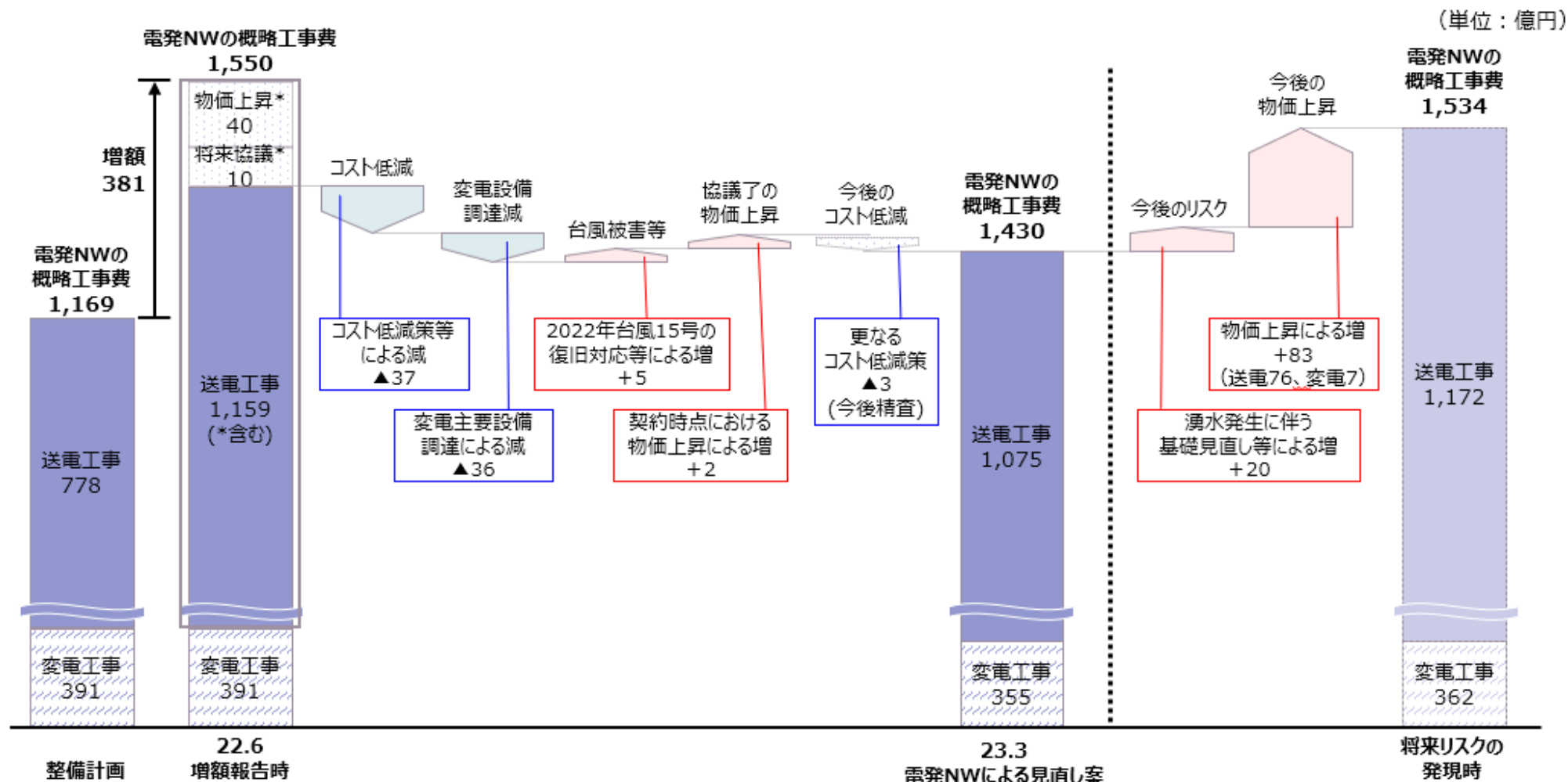
既にこれまでの検討において、一般送配電事業者の知見や確認事項は共有されていることを踏まえれば、まず基本的な対応として、今後のコスト低減策の反映については事業実施主体である電発NW が自ら精査した上で、各一般送配電事業者の協力も仰ぎながら、広域機関にて確認することで本整備計画を進めていくこととしたい。

また、今後のコスト低減についても、現地に入的过程中で現場での工夫の余地がないか、電発NW がしっかり検討する仕組みを構築する必要がある。

なお、今後避けられない工事費増額が発生する可能性もあり、その都度、コスト小委にて審議すれば工事の遅延につながる恐れもある。

既に明示している工事費増額の可能性の中で、例えば保安林解除の手続きにおいて必要な工事を求められる可能性はまだ残っている。このため、**交渉の結果、工事費増額が不可避である場合など、今回の検証で示された将来想定されるコスト増要因が顕在化し、その増額が将来リスク発現時の概算工事費内に収まる場合は、工事の遅延とならないよう必ずしもコスト小委での事前承認までは必須としないものの、工事費増額を把握した時点でまず速やかに広域機関に報告の上、事案に応じて事前又は事後にコスト小委に諮ることとする。**

第30回コスト等検証小委員会
(2023年3月) 資料 3
検証取りまとめ (案)



※工事費には地内整備分を含む。なお、送電工事は佐久間東幹線（山線）他増強工事、変電工事は新佐久間FC新設工事をいう。

※単位未満を四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

- 本日は、本年 3 月の検証取りまとめ及び前回委員会における 4・5 月までの報告を踏まえ、6～10 月までに電源開発NWから受領した報告について確認を行った。
- その結果、**今回コスト小委時点（9月末時点）の電源開発NWの概算工事費は** **億円**となりであり、**検証取りまとめ時の1,430億円から** **億円の増加**となった。
- 電源開発NWは現在もコスト低減策の検討・反映を進めている状況であり、その進捗等については今後も本委員会にて確認していくとともに、引き続き、電源開発NWに対してコスト低減に向けた不断の努力を求めることとしたい。